

第三者評価結果シート・コピー（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

福祉サービス評価センターさが

②評価調査者研修修了番号

No.S16057

No.S24267

③施設名等

名称	聖華園
施設長氏名	西村芳昭
定員	60名
所在地(都道府県)	佐賀県
所在地(市町村以下)	佐賀市金立町大字金立3931番地
T E L	0952-98-1075
U R L	http://www2.saganet.ne.jp/seikaen/
【施設の概要】	
開設年月日	1949/6/1
経営法人・設置主体(法人名等)	社会福祉法人 慈恵会
職員数 常勤職員	29名
職員数 非常勤職員	2名
専門職員の名称(ア)	里親支援専門員
上記専門職員の人数	1名
専門職員の名称(イ)	心理療法担当職員
上記専門職員の人数	1名
専門職員の名称(ウ)	栄養士
上記専門職員の人数	1名
専門職員の名称(エ)	看護師
上記専門職員の人数	1名
専門職員の名称(オ)	家庭支援専門相談員
上記専門職員の人数	1名
専門職員の名称(カ)	個別対応職員
上記専門職員の人数	1名
施設設備の概要(ア)居室数	33部屋
施設設備の概要(イ)設備等	地域交流室
施設設備の概要(ウ)	自立支援室
施設設備の概要(エ)	心理面接室

④理念・基本方針

<p>【基本理念】</p> <p>さまざまな理由により入園してきた児童に対し安心して生活できる場を提供し、必要な教育を受けさせ、家庭的な環境の下で心身ともに健やかに育てるとともに最終目標として、社会への自立または家庭復帰を目指すために様々な取り組みや支援を行います。</p> <p>【基本方針】</p> <p>①安全な生活の確保 児童を病気や事故等から護り、安心して生活できるよう、衣食住を整えるとともに、心理面においてもケアを行い、より安全、安心な生活環境づくりに努めます。また、支援にあたり、暴力や体罰は禁止し、言葉や態度による支援に努めます。</p> <p>②児童の人権の尊重 児童福祉法及び「こどもの権利条約」等を遵守するとともに、児童の心の声に耳を傾け、多様性を認めながら、児童の人権を尊重し、プライバシーの保護にも努めます。また、児童の最善の利益を目指す中で、その自主性や自己決定を尊重します。</p> <p>③健やかな成長を促すための教育と支援 児童それぞれの年齢や能力、発達状況に応じて適切な教育環境を調整するとともに、より発達や成長を促すための様々な取り組みを行い、健やかな成長を支援していきます。</p> <p>④自立を促すための取り組みと支援 社会へ巣立つにあたり、経済的自立は勿論、社会的自立、生活の自立、さらにはこれらを支える精神的自立の力を養うことができるよう、様々な取り組みや支援を行います。</p> <p>⑤家庭との連携と家庭環境の調整 児童の成長においては、家庭の理解と協力が大きな力になることから、家族との協議を丁寧に行うとともに、家庭に戻り、家族と暮らすことは、児童の最大の願いであるため、児童が早期に家庭復帰できるための環境づくりに取り組んでいきます。</p> <p>⑥地域との共生 施設の児童は地域の子として育つということを常に意識し、地域及び学校等の行事や祭りなどに積極的に参加するとともに、聖華園の行事にも参加してもらうなど、地域の方々と聖華園児童との相互理解を深めながら交流を図ります。</p> <p>⑦職員の資質の向上 児童を護り、健やかに育てるためには職員の熱意と人間性、専門性の向上が不可欠であることから、これらを高めていくための研修や取り組みを積極的に行っていきます。</p>
--

⑤施設の特徴的な取組

6棟のホーム形式（うち2棟は小規模グループケア）で、小舎制のユニットケアを実践している。職員は3名～4名の担当制で、より家庭に近い環境の中で児童の支援を行っている。
 また、自立支援室を設けており、高校3年生を対象として一人暮らしに向けた自活訓練を行っている。支援内容としては、①自分で起きて弁当を詰め登校する、②掃除、洗濯等は自分で行う、③土日の3食は食材を購入し自炊する、などの生活体験の支援を行っている。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2017/4/28
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2017/9/19
受審回数	1回
前回の受審時期	平成26年度

⑦総評

社会的背景が大きく変わる中で、子どもたちはいろいろな観点から影響を受けている。その弱い立場の子どもたちに質の高い養育支援を提供する事は、大変有意義な仕事であると感じられた。職員は、基本方針や基本理念を根幹とした揺るぎない志を持ち、日々養育支援に力を注がれていることを感じる事ができた。

評価の高い点

- 中・長期計画は基本方針と基本理念の実現に向けてしっかりとビジョンを定めて進められている。
- 単年度の計画も中・長期計画を踏まえ、着実に推し進められている。
- 養育・支援の質の面にも取り組みに気を抜かず、自立支援計画書をもとに意欲的に向上を図る努力をされている。それが確実に養育・支援に繋がられている。
- 地域や関係機関と連携し、ネットワークを構築されている。
- 施設長は、自己研鑽に努められており、リーダーシップを持ち、指導力を発揮されている。
- 全職員で子どもたちが、健全に育つよう情報を共有し連携した支援が行われている。

改善点

- 事業計画について、子どもや保護者に分かり易く伝えるよう取り組まれることが望まれる。
- ユニット化や小規模グループケアが始まり、職員間のコミュニケーションが、取りにくい状況になりやすいので、心掛けて声かけあうよう取り組まれることが望まれる。
- 小規模グループケア等の開始により安全を守る範囲が拡大している。徹底した安心と安全に努めていただくことが望まれる。
- 子どもの食育に関する取り組みが充実することが望まれる。
- 職員の福利厚生に関する取り組みが充実することが望まれる。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

この度は、平成26年度以来、2回目の第三者評価の受審となりました。当園の取り組みについて、評価していただいた点は更にその取り組みの充実を図り、また改善についてご指摘を頂いた点については、真摯に受け止め改善してまいります。指摘を頂きました、事業計画を子どもたちや保護者へ分かりやすく周知する等の工夫や、食育の充実、職員研修や福利厚生の充実につきまして、職員で議論を深め、計画、実行、評価、改善を重ねてまいります。

⑥第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるような具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	

【コメント】

理念や基本方針は、ホームページで公開されている。職員には、園内のLANを用いて周知が図られている。理念は、聖華園が目指す方向性や考え方を示しており、基本方針は理念と整合性が確保されている。また、職員の行動規範となるような具体的な内容となっている。職員へは、研修会での説明、会議等での協議により理解を深めるよう図られている。今後、子どもや保護者等へ説明するためにわかりやすく工夫した資料を作成し、周知に努めていただくことが望まれる。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果	
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	2
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○	
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○	
【コメント】			
佐賀県内で社会的養護の下に生活している児童数を鑑みて、来年度より定員を60名から45名に減らし、小規模化することで子どもへの処遇がより手厚いものとなるよう計画されている。また、小規模加算による措置収入の増収を図る計画もある。これらの計画は書類等で確認できる。			
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a	3
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○	
【コメント】			
施設整備、職員体制、財務状況等を把握・分析し、施設経営の課題を探り、具体的問題点を明らかにすることで、これらの改善に取り組まれている。平成26年4月にオールユニット化の新園舎になり、小規模グループケアに取り組まれている。平成29年よりファミリーホームの支援事業を始められている。これらの経営に関する取り組みを職員にも周知が図られることが望まれる。			

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	4
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○	
【コメント】			
中・長期計画には、今後予想される措置児童の減少を鑑みて、ホームのオール小規模化や職員の複数体制を実現するという目標が立てられている。里親支援専門相談員を配置し、平成29年度から里親ファミリーホーム2カ所への支援が行われている。将来的には児童家庭支援センターの設置も見据え準備が進められている。これらの計画は書類等で確認出来る。			
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	5
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○	

<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】
 中・長期ビジョンに沿った単年度の事業計画を作成し、4月の職員会議で職員全員に周知徹底が図られている。また、園内のLANでいつでも閲覧することができる。実施状況の評価は、現時点では行われていない。着実にビジョンを基に具体的な目標を設定し実施されている。実施状況評価は一定の期間を定めて評価を行うよう、今後に期待したい。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	6
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○	
<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○	
<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○	
<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○	

【コメント】
 全職員の意見を聞き、職員から具体的なコメントを取り、事業計画の見直しを行っている。また、月1回行われる職員会議の場で資料を配布し、職員に周知を図り理解を促す取り組みが行われている。

② 7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c	7
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。		
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。		
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。		
<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。		

【コメント】
 保護者等に対しては行事の時や面会、用事で来所された際に資料等が配布されている。しかし、園で実施されている事業や行事の目的を理解することには至っていない。入園の事情が様々で、保護者等と連絡が取れない場合もある。事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成し、子どもや保護者等へ理解しやすい工夫が今後期待される。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	8
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○	
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的を受審している。	○	
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○	

【コメント】
 組織的な体制整備が十分ではないと言われているが、書面や資料等を見ると組織的な取り組みや評価も確認できた。なお、取り組みが不十分なものについては強化月間を設けてたり、リーダー会議、職員会議の協議テーマとして位置付け、組織的な改善を図る等、工夫が見られる。

②	9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	9
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○	
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○	

【コメント】

自立支援計画書を基に実行・評価・見直しが行われている。評価結果の職員間での共有もなされている。評価による課題については、改善策を検討し対策が図られている。これらの取り組みは文書でも確認できた。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果	10
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○	
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○	

【コメント】

施設長は、その役割と責任を明確にし、日々の業務の中でもリーダーシップを発揮している。ハード面、ソフト面のチェックも細部にまで行き届いている。心配り、目配りを感じ取ることができる。場面により部長に任せる業務も定められている。広報紙や掲示物等を用いて意志を表示され、有事、不在の時の連携対応についても書面で明確にされている。文書で確認することができる。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	11
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○	

【コメント】

施設長は遵守すべき法令を正しく理解するべく、わからないことは弁護士、税理士等の専門家に聞いたり、研修会や勉強会に参加して情報を収集されている。それを基に職員に対し、法令等について資料を回覧したり、具体的に説明を行う等周知が図られている。職員の意識も高く、施設長の養育・支援に対する意識に習おうとする意気込みが感じられる。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。			12
①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○	

<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

施設長は、子どもの養育・支援の質の向上のため、職員に具体的に指示を行う等リーダーシップを発揮している。園の顔として、職員からの信頼が感じられる。また、子どもへの声かけ、目配りにも配慮が感じられる。園のハード面も防犯を心がけ、危険な所が無いか気を抜かず、手を抜かず取り組まれている。園全体の雰囲気作り等にも気配りが感じられる。文書、書類等で専門性の向上に努められていることが確認できる。

②	13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	13
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○	
<input type="checkbox"/>	施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○	
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○	

【コメント】

施設長は、組織体制の変革に向けて、人員の配置や労務管理、財務上の課題を把握し、長期的な視点を持ち対応するよう取り組まれている。また、職員への配慮も怠らず、職員の意思を協調したうえで指導力を発揮している。

2 福祉人材の確保・育成

(1)	福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果	
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	14
<input type="checkbox"/>	必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○	
<input type="checkbox"/>	養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○	
<input type="checkbox"/>	計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○	
<input type="checkbox"/>	法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○	
<input type="checkbox"/>	各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○	

【コメント】

人材の確保や職員の定着に向けて、労務管理や職員の給与の見直しを平成27年に行っている。養育・支援に関わる専門職の確保については、大学、短大をはじめ各種学校を直接訪問してお願いされている。ハローワークも利用している。計画的に雇用し人員体制の充実に努めている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b	15
<input type="checkbox"/>	法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	○	
<input type="checkbox"/>	人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○	
<input type="checkbox"/>	一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。		
<input type="checkbox"/>	職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。		
<input type="checkbox"/>	把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○	

	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができてい る。	<input type="radio"/>
--	--	-----------------------

【コメント】
将来の人事考課制度の導入に向けて検討を行っている。一定の人事基準に基づいた職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度の評価が十分ではないと理解されており、これからの課題に上げられている。職員とコミュニケーションを取ることで意向の確認や、意見の聴取が行われており、理解を深める努力が伺える。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b	16
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。		
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="radio"/>	

【コメント】
産休明けで復帰した職員や子育て中の職員をはじめ、職員全体のワークライフバランスを考え、出来るだけ働きやすい勤務体制がとれるように、職員の希望を聞きながら配慮に努めている。限られた職員数での調整のためバランスをとるのが難しいと言われている。職員の福利厚生が、まだ不十分なことは理解されており、今後の充実が期待される。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	17
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	<input type="radio"/>	

【コメント】
職員の育成の一環として、職員一人ひとりに施設職員としての目標設定が行われている。4月に指導部長と各職員の個人面談を行い目標を設定し、9月に目標の達成に向けた振り返りが予定されている。年度末には1年間の達成度についての個人評価を行い、次年度の目標設定をする予定である。書面でも目標設定の内容が確認できた。新任職員が加わることでコミュニケーションが取りにくくなることを改善するため、面接等で職員との会話をもち個人のモチベーションを上げるよう努められている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	18
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。		
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

職員の教育については、年間の計画を立てて園内研修や新任職員研修が実施されている。受講計画等が書面や掲示ボード等で確認できた。外部研修も意欲的に取り入れられており、その都度、会議等で受講した職員からの報告、内容検討がなされている。全ての職員を一度に外部研修に出すのは、勤務体制を考慮すると難しいため、受講の実績を記録し、多年度にわたり計画的に受講の機会が与えられるよう努められている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b	19
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○	
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○	

【コメント】

園内研修や園外研修等を活用し、日々、全職員の資質の向上に努めている。職員の知識、技術水準、専門知識を習得する機会を設けて、特定の職員に偏りがないように配慮されている。研修に関しては、職員による研修委員を組織し取り組まれている。不十分な点に関しては、充実に向けて計画的に取り組む姿勢を示されている。今後も継続した取り組みを期待したい。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	20
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○	
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○	

【コメント】

実習生は、受け入れ体制を整備しマニュアルに基づいて積極的に受け入れが行われている。実習受け入れに関する資料等が確認できた。実習生の受け入れの際は、担当職員を配置し、規定、マニュアルに沿ってオリエンテーションの時間を設けて指導されている。実習指導者は西九州大学で実施される実習指導者研修会に参加している。社会福祉士、保育士等の資格取得のための実習を受け入れており、実習のプログラムも充実している。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b	21
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	○	
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。	○	
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。		

【コメント】

苦情対応については、第三者委員から助言を聞いて対応されている。苦情の窓口は各ユニット担当で行われている。苦情を受けてからの処理は、真摯に受け止めて、誠実に的確に行われている。なお、苦情解決に至るまでの対応過程はホームページにて公表している。これまでの事例を文書で確認できた。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	22
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。		

【コメント】

規定集を事務所に備え置き、職員はいつでも容易に見ることができる。法人で顧問契約を行った税理士により内部監査が定期的に行われており、施設経営・運営の適正が確保されている。外部監査は、行われていないため今後の課題とされている。今後も公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のために努力されるよう期待したい。経理規定等は書面で確認できた。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果	
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	23
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

地域交流事業については、事業の起案書に交流の目的等が明確に示されており、職員全体で情報が共有化されている。地域での交流事例は奉仕活動の一環として、春・秋の河川清掃に参加している。夏祭り、町民運動会等にも子ども、職員共に積極的に参加している。ボランティアの受け入れ体制も整っており、企業や団体等のボランティアの申し込みがよくある。企業ボランティアには球技大会前の技術指導等も受けている。書類で確認することができた。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	24
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

ボランティアの受け入れの為の規定、マニュアルを整備し、円滑に受け入れできるようにしている。ボランティア受け入れ時、窓口担当者を配置し、登録手続・事前説明等を行っている。園内の行事だけではなく、様々な分野の方々のサポートが書面で確認できる。なお、子どもの安全と安心を守るため、写真撮影や新聞等への掲載には十分注意して、ボランティアの方にもプライバシー保護に協力をしていただいている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。			
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	25
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	<input type="checkbox"/>	

<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

定期的に児童相談所、小・中学校、幼稚園との連絡会を開催し、子どもの支援に関する情報の共有化に努めている。子どもへの養育・支援に必要な機関や団体等と連携を取り、ネットワーク作りが意欲的に行われていることが窺える。社会資源の活用を勢力的に行い、子どもの養育・支援に努めている。職員にも情報は周知され共有されている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

① 26 施設が有する機能を地域に還元している。	b	26
<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。		
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。		
<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。		
<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	○	

【コメント】

地域住民の方々が、自然災害等の際に利用できるように園内に地域交流室を設けている。一時避難所として、活用されるよう案内を行っている。しかし、まだ地域の方には十分認識されていないため、利用方法等について地元と協議を重ね、建物の有効活用に繋がりたいと考えられている。現在は、この部屋を部活動の保護者会や、幼稚園と合同事業として開催する誕生会等に利用されている。人的交流では、職員が子どもクラブやPTA等の団体役員として、役割を積極的に担っている。今後、活用の充実が期待できる。

② 27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	27
<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。		
<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。		
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○	

【コメント】

ショートステイの受け入れや民生委員等の視察受け入れに取り組まれている。また、職員は、要保護児童対策地域協議会や実務者会、園に関連する会議等に参加している。ネットワーク作りに対する努力が感じられる。民生委員・児童委員との会議開催には至っていない。今年度から、新設されたファミリーホーム2カ所に園として支援事業を行っている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

第三者
評価結果

① 28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	28
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○	

<input type="checkbox"/>	子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
<input type="checkbox"/>	子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/>	子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

理念や基本方針に子どもを尊重した養育・支援の実施が明示されている。その理解を深め、実践できるように職員会議やケース会議等の場で具体的な議論が行われている。議題になる例として、児童会での子どもの意見や各ホームの代表者の発言・報告などが取り上げられている。他にアンケートを年2回実施し、子どもの意向を踏まえて議論している。書面での確認もできた。

②	29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	a	29
<input type="checkbox"/>	子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○	
<input type="checkbox"/>	子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○	
<input type="checkbox"/>	子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	○	
<input type="checkbox"/>	一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○	
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	○	
<input type="checkbox"/>	規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○	
<input type="checkbox"/>	不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	○	

【コメント】

子どものプライバシー保護については規定・マニュアルを整備されている。子どものプライバシーの保護は各ホームに限らず、生活場面でも配慮されていることが目視で確認できた。プライバシー保護や虐待防止等の権利擁護についての研修及び不適切な事案などの発生した場合の対応等の研修会を企画されており、職員へ周知徹底を図るよう努められている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b	30
<input type="checkbox"/>	理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○	
<input type="checkbox"/>	施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○	
<input type="checkbox"/>	施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○	
<input type="checkbox"/>	見学等の希望に対応している。	○	
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○	

【コメント】

入所の時は施設長、部長、ホームリーダー、家庭支援専門相談員の4人で対応されている。入所予定の子どもや保護者が希望する場合には、事前に施設見学の受け入れが行われており、施設の目的や環境を理解して入所していただけるよう努められている。状況に応じて施設案内パンフレット等配布し説明を加えている。施設の理念や基本方針が提示され、養育・支援の内容も紹介されている。ホームページにも掲載されている。今後、保護者に対するの情報提供について、わかりやすい資料等を用意し改善が図られることに期待したい。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b	31
---	--	---	----

<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	
<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】

養育・支援の開始過程においては、園のパフレットや、入所資料等を使い、丁寧に説明が行われている。意思決定が困難な子どもや保護者等に対しても配慮を心掛けて説明されている。今後の取り組みとして、説明用の資料に写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるようなものを作成することや、説明の不備や改善点を検討し職員間で配慮についてのルール化を図ることが望まれる。

③ 32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b	32
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○	
<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。		

【コメント】

ケースの引き継ぎにおいては、蓄積された情報が確実に引継ぎ先に提供できるよう配慮されている。退園後の相談や訪問の状況も記録されており、業務日誌等で確認することができる。しかし、退園後、連絡がつかなくなり、生活の様子を掴めなくなるケースもあることから、子どもや保護者等へ退園後の相談方法や窓口、担当者を明確にされていることが確認できた。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。	第三者 評価結果	33
① 33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a	
<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○	
<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○	
<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○	

【コメント】

子どもの満足の向上を図るため、毎年度当初に入所中の子どもへのアンケート調査を実施している。他にも奇数月に開催する児童会や、子どもとの日常の関わりの中で子どもの意見を聞き、満足度の把握に努められている。アンケート調査の結果は、職員会議で議題に上げ支援課題の共有化が図られている。職員会議の内容、アンケート調査書類等を書面で確認した。

(4) 子どもが意見を述べやすい体制が確保されている。		34
① 34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	
<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○	
<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○	
<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	○	

<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	○
<input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。	○
<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

法令に従い、子どもや保護者等からの苦情解決はもとより、施設長や園宛での苦情への対応にも努力が見られる。子どもへは、「権利ノート」を渡して学習の手引きとしている。子どもが直接口に出せないことは、園内に意見箱を設置して担当者が月1回確認している。第三者委員は地域の学識経験者2名にお願いされており、施設や施設長宛での苦情は、投書内容や処理に関与して、不透明な処理を防止する対策を講じている。

② 35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a	35
<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○	

【コメント】

子どもと職員が普段の生活の中で、お互いに触れ合い、意見を聞いたり、思いを感じ取ったりしていることが受け取れる。子どもの苦情については、受付の担当者を配置し、児童が意見を述べやすい環境が整備されている。意見箱は、投函時に人目に付きにくい園内3カ所に配置されており、誰でもいつでも利用出来るようにしている。匿名の封書も準備し、児童相談所へ直接送付できるよう切手も用意されている。心理面のケアには臨床心理士がおり、個別に対応できる。居室の環境も整っており、落ち着きが感じられる。掲示物等による周知も確認できる。

③ 36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	36
<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○	
<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○	

【コメント】

子どもからの相談や意見を受ける方法等についてマニュアルが整備されている。マニュアルは、年に一度見直し点検が行われている。子どもの意見を積極的に把握できるように、先に挙げた意見箱の設置や匿名のアンケートの実施等の対策が取られている。対応の状況は書面で確認できる。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

① 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	37
<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○	
<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○	
<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○	
<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○	

【コメント】

安全委員会を設けて、子どもの安心と安全を守る取り組みが行われている。この委員会は、事案発生時に不定期に開催されている。リスクマネジメント体制を作り、収集した事例を基に対応策の検討がなされている。日常の情報伝達に園内SNSが利用されている。ヒアリハット、事故報告書等の事例記録がある。事案の発生要因の分析、改善策・再発防止策を検討・実施する取り組みが十分とは言えないため、今後の改善が期待される。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	38
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	○	
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○	
	<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	○	

【コメント】

常勤の看護師1名で児童の健康管理を行っている。処置室、感染症発生時の安静室の環境が整備されている。子どもの衛生管理はもとより、感染症の予防と対応マニュアルを整備して、それを職員に周知・徹底して対応されている。マニュアルは年1回見直しが行われ、内容が点検されている。また、必要な情報を園内SNSで配信したり、文書を作成し注意喚起を促している。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a	39
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○	
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○	
	<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	○	

【コメント】

災害時の対応マニュアルが整備されている。また、施設における災害時の対応体制が整えられている。災害時の避難先、避難方法、避難ルート等は書面で作成され、ユニット等に掲示されている。また、食糧や備品の備蓄・整備も行われている。備蓄品は、消費期限を記録し、防災訓練等の時に期限の迫っている非常食を使用した体験を実施し、備蓄品の入れ替えが適切に行われている。施設長を中心に職員一丸となって防災訓練や不審者対応訓練が実施されており、消防署・警察官立ち合いもある。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果	40
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○	

【コメント】

施設独自の生活支援マニュアルを作成し、マニュアルの内容は職員間で共有が図られており、共通の認識を持って養育・支援が実施されている。また、マニュアルは、定期的に見直しされている。マニュアルは書面で確認することができる。今後、各ホーム毎のマニュアルの必要性について検討を行う計画があることから、標準的な実施方法をさらに改善する前向きな姿勢が感じられた。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

41

【コメント】

職員は、生活支援のマニュアルに沿って養育・支援を行い、定期的に検証見直しも行われている。自立支援計画の見直しは9月と3月に行われており、書面で確認できる。マニュアルは、自立支援計画の内容を踏まえ、子どもと職員の意見や提案を取り入れた内容となっている。今後も研修や勉強会等で得た知識、情報等を取り入れ、幅広い視野をもち、内容の更新が引き続き継続されることが望まれる。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

42

【コメント】

自立支援計画書の策定責任者が明確にされている。アセスメントは、担当ホーム職員が中心となり、児童相談所や学校などからも意見を聞き行われている。子どもの目標設定には、アンケートを利用したり、子ども自身に、直接、希望を聞いて反映させている。また、年度の初めに保護者からも意見を聞いている。必要に応じて心理士、家庭支援専門員等も関わっている。支援目標は子どもに理解される内容となっている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

43

【コメント】

自立支援計画書の記入マニュアルが作成されている。各ホームの担当で半期に一回見直しも行われている。職員の意識も高く、目標達成に向けてケース会議等の機会に議論を深めている。また、措置変更や学校での問題等で緊急に支援計画を変更する際もケース会議で検討し関係者へ周知されている。心理士、家庭支援専門相談員なども必要に応じて議論に加わっている。これらの経緯が書類で確認できる。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○

44

<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

園内のネットワークシステムや職員間のSNSを使用し、リアルタイムで情報を共有している。継続して支援が必要な内容については、記録が残されており、記録の際は簡潔に伝えるべきポイントをおさえて書くように指導されている。養育・支援の記録が文書として残されていることが確認できる。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	45
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○	

【コメント】

記録管理責任者を配置して、記録の管理が円滑にできるよう配慮されている。子どもに関する記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規程が定められている。電子データの情報漏えいについてもパスワード等を設定し対策を取られていることが確認できる。また、整理整頓された書類の保管も目視で確認でき、個人情報を含む書類の棚は施錠することができる。過去の記録文書は、専用の書庫を設け保管されており、その鍵は事務所内で適切に管理されている。

内容評価基準（41項目）A－1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果		
①	A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a	A1
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。	○	

【コメント】

子どもの養育・支援は、子どもにとっての最善の利益を考え、尊重しながら自立支援計画書を作成している。また、日常の養育・支援は、ホーム形式の採用により家庭に近い環境で行われており、ホーム担当職員（1ユニット3名～4名）が支援を行っている。日々のスーパービジョンはホームリーダーが行っている。なお、スーパービジョンを充実させるため、ケース会議及び引き継ぎ会等に基幹的職員も入るようにしている。ケース会議等の内容は書類で確認できる。

②	A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a	A2
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○	

事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。

【コメント】

家庭支援専門相談員とホーム担当職員が子どもと個別に話す時間を設けて対応するようにされている。話す時間は、子どものおかれている状態や心情に配慮し、タイミングを見計らって行われている。話すタイミングはケースバイケースで、言葉の理解や精神的な成長を待ち、こどもが知りたいと思った時などに応じ、その後、フォローできる体制も整えている。また、内容によっては児童相談所に相談されている。

(2) 権利についての説明

①

A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。

b

A3

定期的に全体場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。

権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。

年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)

定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。

子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。

【コメント】

子どもの権利について、各ホームに権利ノートを設置し、ホーム担当職員がノートを用いて説明し、理解を得る取り組みが行われている。理解の度合いは、子どもの特性により個人差があるため、職員は根気強く対応されている。今後も子どもを尊重し、誠実に根気強い対応を継続して行われることが望まれる。

(3) 他者の尊重

①

A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。

a

A4

基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別にふれあう時間を確保している。

喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。

日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。

年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するよう支援している。

【コメント】

各ホームの子どもの構成は、小学生高学年以上の児童については縦割りで異年齢の子ども10名程度になるように分けられている。各ホーム単位で協働生活を送り、子どもには当番制で役割が与えられ、助け合いながら、他を思いやる心が育つよう養育・支援が行われている。また、施設内での行事の際には、他ホームの子どもとも協力する心が養われるように支援されている。さらに、地域の行事にも積極的に参加させて、施設外の人を理解し尊重する心の育成にも取り組まれている。職員は障害を持つ子どもにも適切に対応できるよう、外部の研修会等で障害の特性について学んでおり、子どもに寄り添い対応できるよう努めている。

(4) 被措置児童等虐待対応

①

A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。

a

A5

「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。

被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。

被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。

【コメント】

被措置児童等虐待防止ガイドラインのチェックが年二回実施されている。また、虐待防止に係る研修を全職員が、三年以内の間に受けるように計画されている。就業規則において、被措置児童等の虐待防止に関する規定を具体的に示すと共に、防止策として職員に対して周知徹底が図られている。体罰並びに不適切な対応や虐待が起こらないよう日頃から啓発と防止に努められている。これらの取り組みは記録文書、書類等で確認できる。

②

A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。

a

A6

<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。	○
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。	○
<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。	○
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	○
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。	○

【コメント】

不適切な関わりに迅速に対応できるように、職員は子どもからの訴えやサインを見逃さないよう、常に留意されている。問題が発生した場合は、職員の体制の見直しを行う等、迅速に対応できるよう体制が整えられている。毎日の引き継ぎ会では、子どもへの関わり方について確認したり、各ホーム日誌を活用して関わりについてコメントを入れ、職員の日常の養育・支援において早期発見できるよう心掛けている。職員研修等では、就業規則を示しながら具体的な事例を挙げて防止に努めている。今後は、援助技術等の研修会が計画されており、引き続き不適切な関わりへの防止に努めることが期待できる。

③ A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a	A7
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。	○	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。	○	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○	

【コメント】

ガイドラインに従い、苦情や虐待等の手順を示したフロー図を園内各所に掲示し、子どもへの周知が図られている。意見箱を園内三カ所に設置し、子どもたちが直ぐに訴えることができるように配慮している。また、意見箱の設置場所も他の子ども等の目に触れず投函できるよう配慮されている。対応には担当職員を配置し適正な処理されている。第三者委員も設置されており、内容に応じて第三者の意見を入れて対応されている。

(5) 思想や信教の自由の保障

① A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	a	A8
<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。	○	
<input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	○	

【コメント】

子どもや保護者等の思想や宗教等に制限はなく、自由が保障されている。また、保護者の思想・信教で子どもの権利が損なわれないように配慮されている。僧侶を講師にした法話が、倫理観を学ぶため学期に1回(年3回)実施されているが、参加は強制ではない。

(6) こどもの意向や主体性への配慮

① A9 子どものもそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a	A9
<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	○	
<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。	○	

【コメント】

生活支援マニュアルが整備されており、その中に入所の相談から生活するまでの手順が明記されている。受け入れ準備、入所対応時には、このマニュアルで保護者等へ説明し、手続きが円滑に進むように配慮されている。また、施設での生活が児童の意向、主体性を最大限に尊重していることを説明するために、権利ノートを用いて説明が行われている。円滑な受け入と施設生活への定着が図られるよう努めている。

②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	b	A10
	<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。		

【コメント】

職員は、生活改善に向けて子どもと共に積極的に取り組んでいる。しかし、子どもと十分に意思疎通が図られていないところもあり、職員主導となる場合がある。今後、子どもがさらに意思を表わすことができる環境作りを進めていくことが期待される。児童会が2ヵ月に1回定期的に開催されており、子どもたちが園生活について議論する場となっている。一部のホームでは、子どもの側から積極的に意見が出される反応も見られており、園全体に広がるのが、今後期待できる。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	a	A11
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。	○	
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	○	

【コメント】

学校の部活動は、子どもの希望を尊重し、帰宅や食事の時間が配慮されている。また、可能な限り地域のレクリエーションや行事に参加できるよう配慮されている。行事の参加に際しては、子どもの意思を十分確認し、尊重するようにされている。しかし、特性の強い子の参加が難しい場合もある。地域の野球やサッカー等のスポーツクラブへの参加は、職員による送迎が困難なため行われていない。

②	A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a	A12
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。	○		

【コメント】

子ども一人ひとりが小遣い帳を持ち、ホーム職員の支援により記入を行っている。子どもが小遣いを自己管理出来るように支援することで、自立後に自分で金銭管理が出来るようにしている。小・中学生の小遣いは金庫で保管し、高校生以上の小遣いは自分で管理させている。また、退所後の生活費とすることができるよう、無駄遣いを控え貯蓄も行うように支援が行われている。

(8) 継続性とアフターケア

①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	b	A13
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。	○	

<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。	○
<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。	

【コメント】

家庭復帰に関しては、家庭支援専門相談員を中心に対応を進められ、児童相談所と連携を密にしながら支援が行われている。卒園者に関する記録については、その都度、日誌に記録が残されている。家庭復帰後の生活にあたって、アドバイスをしたり情報を提供して、生活の安定に向けて支援が行われている。必要に応じて家庭訪問も行われている。しかし、遠方への居住、連絡先が変わりわからなくなる、面会のタイミングが合わない等で、家庭復帰後の子どもや保護者の状況把握ができない場合もある。今後、市町村等関係機関の協力を得て継続的な支援が充実されることを期待したい。

②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a	A14
	<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○	

【コメント】

現在、高校を中退した子どもについては、自立支援室を活用して措置継続が行われている。アルバイト等により社会経験を積み安定した収入を得て、二十歳の誕生日前を目途に自立できるよう支援されている。また、高校卒業後の措置延長が必要な児童については、関係機関との調整を行い、大学等への進学や就職のための支援が行われている。職員の意識も高く、子どもの自立に向けて組織的に取り組まれている。

③	A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b	A15
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。		

【コメント】

退所者の様子が把握出来るように、電話、メール等で近況の把握に努めている。また、退所者等から相談があった場合は、ケースに応じたリービングケア等の支援が行える体制がある。しかし、連絡先が変わり変更後の連絡がない場合は、以降の連絡が途絶えアフターケアができなくなる状況がある。退所者への支援が継続的に行えるよう、連絡先の把握等に努めることが期待される。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果	
①	A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b	A16
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○	

【コメント】

子どもの背景にある様々な要因を理解し、職員間で連携しながら養育・支援に努めている。子どもの気持ちを知るためにアンケート調査を実施している。子どもの気持ちを十分理解し、より沿った支援が出来るように努めている。しかし、子ども一人ひとりの抱える課題は多様で解決に時間を要する事もあり、心配り、目配り等、根気強い支援が必要とされる。引き続き、子どもとの信頼関係を築き、子どもの心の内面を理解した養育・支援に努めていただくことが望まれる。

②	A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b	A17
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。	○	
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○	
	<input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	○	
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○	

【コメント】

各ホーム3人～4人の職員でチームを組み、子どもとの関係性を築くように努めているが十分とは言えない。今後は、可能な限り子ども一人ひとりと触れ合う時間が確保出来るように、園全体で工夫することが望まれる。

③	A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a	A18
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	○	

【コメント】

自立支援計画を基にして自分でできることは自分で行わせて、職員の指示をできるだけ減らすよう努めている。子どもが自らで判断し行動出来るように、各ホームで取り組まれている。発達障害や知的障害のある子どもに対しては、同様の支援が難しいため配慮が必要な場面もある。日常の生活の中で子どもの体験を通じて成長を促し、子どもを信じて見守りを継続して頂きたい。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b	A19
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもたちの学びや遊びを保障するための、資源（ボランティア等）が十分に活用されている。	○	

【コメント】

幼稚園への通園は、原則として3年間としている。また、子どもの特性や能力に応じて、特別支援学校への通学や特別支援学級へ入級させ、教育の機会を保障している。小学生は、大学生の学習ボランティアに宿題を教えられることができる。中学生3年生は、受験対策として、通塾を行っている。部活動のある中学生は、中体連が終わってから通塾することになる。今後の課題として、年齢や発育状況に応じたプログラムを作成されていないため、取り組みを期待したい。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a	A20
	<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。	○	
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上で必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。	○	

【コメント】

各ホームは、子どもの生活の流れに沿うような建物の構造と間取りとなっている。睡眠、洗面、トイレ、食事、休息、趣味等生活のあらゆる場面で構造に心配りが見られる。家具、キッチン、家電なども効率的に配置されており、子どもたちが使い易いように整えられている。また、職員は子どもの模範となるよう、普段の立ち振る舞いにも気を付けて接している。

(2) 食生活

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a	A21
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。	○	
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○	
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	○	
	<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎える際の食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	○	

【コメント】

ユニットケアのホーム制に移行し、適温での食事提供ができています。明るい清潔な環境が整い、食事時間も適切に確保できています。各ホームの取り組みでは、子どもたちで簡単な調理をして皆で食べることも行われている。外庭でバイキング形式で食事を楽しんでいる様子をパンフレットや掲示物等で確認することができる。今後、誕生日会や行事の際に、料理の盛り付けやテーブルの飾り付けを子どもたちが工夫して取り組む場面を増やし、食事を楽しむ機会の提供を期待したい。和やかな食事の雰囲気が感じられた。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	b	A22
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。	○	

【コメント】

嗜好調査等を行い、子どもの嗜好を反映させた献立を取り入れるよう努めている。子どもが病気になった場合は、体調に合わせた食事提供が行われている。今後、献立で工夫しているところを子どもに分かりやすく説明していく機会を設けるように検討されている。提供する子どもの年齢の幅が広く、味覚の発達・発育状況の違いがある中で、アレルギー等の要件もクリアしなければならないため、子どもの満足が得られる食事の提供に努力されていることが感じられる。引き続き、食育を取り入れ、献立がマンネリにならないよう配慮し、子ども達に「いのち」を頂く大切さを体験してもらい成長の糧となる食事の提供に期待したい。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b	A23
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	○	
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつづくり等、栄養についての正しい知識を教えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。	○	
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	○	
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	○	

【コメント】

食事の準備や片付けは、各ホームで子どもが当番を決めて交代制で行われている。日常の食事において、子ども自身が調理をする機会は設けられていないが、今後、計画的に実施することが検討されており、その機会に食材や栄養の事について学ぶ時間を設けることも考えられている。女子のホームや小規模ホームでは調理する機会を設けて、料理を作りながら栄養について話をされる。今後も栄養士を中心に探究心を持ち子ども達の、舌と心を掴む努力に期待したい。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a	A24
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○	
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体に合ったものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○	
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○	

【コメント】

毎日ホーム職員が、洗濯の際に子どもたちの衣類の点検をしている。体のサイズに合ったものか、破損していないか、等、確かな心配りが感じられる。衣服費は年間の金額を決めて、子どもの要件を満たすように計画を立てて購入し、入れ替えられている。また、買い物は子どもと一緒にいき、好みとサイズ等合ったものを購入している。職員の意識も高く、着替えや衣類の整理、保管を指導、手助け等様々な取り組みが行われている。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	a	A25
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。	○	
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	○	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	○	

発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。

○

【コメント】

オールユニットのホーム制により、ハード面については家庭に近い環境での養育・支援が行われている。玄関、トイレ、洗面所、浴室もリビングの側に位置し、物品は整理、整頓されており、清潔な空間が保たれている。日頃の職員の子どもに対する、思いが伝わるように感じる。中庭・外庭は、清掃され花や木が適度に整備されている。子どもの感性を育てる支援にも取り組まれ、生活に潤いを与えていただくよう期待したい。

②

A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。

a

A26

小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。

○

リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。

○

中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。

○

年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。

○

【コメント】

部屋の分け方は、小学生は4人部屋、中学生は2人部屋、高校生は出来るだけ個室が確保出来るように配慮されている。また、それぞれのプライバシーが保てるよう図られている。小規模グループケアでは4：1の職員の配置を行い、職員が目配りがしやすい環境の下で子どもたちの養育・支援が行われている。

(5) 健康と安全

①

A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。

a

A27

常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。

○

手洗いやうがいの習慣が身につくよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。

○

洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。

○

定期的に理美容をしている。

○

寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。

○

施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。

○

子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。

○

【コメント】

子どもの健康管理について、幼児は毎日朝・夕にバイタルチェックを行い、排尿・排便の有無等の確認も実施されている。女子には、個別に生理のチェックが行われている。職員一丸となって子どもの衛生管理に力を入れているのが伝わってくる。また、子ども達の施設内、外からの危険に気をつける事や、その日のニュースを話題にして社会のルールが理解できるように配慮された養育・支援が行われている。

②

A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。

a

A28

子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。

○

あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。

○

健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。

○

受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理が必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。

○

職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。

○

【コメント】

常勤の看護師を1名配置し、子どもの健康管理、服薬管理、通院の対応等が行われている。また、感染症予防の情報提供や対策の具体的指示を行っている。環境の整備、遊具・自転車の点検等も含め、生活のあらゆる面で子どもの健康管理に配慮された支援が行われている。日常においては、子どもと触れ合いながら、心身の健全な状態を保つよう養育・支援を行っている。今後、情報が偏らないよう嘱託医や医療機関を活用し、新しい情報や対策を取り入れ、子どもの健康維持に努めることが期待される。

(6) 性に関する教育

①	A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a	A29
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○	

【コメント】

小学生、中学生を対象とした性教育プログラムが実施されている。幼児についても、入浴を男女別にする、着替えを別する等の配慮が行われている。おむつ交換も男女で部屋を分けて、他の子どもの視界に入らないよう配慮している。児童に対する性教育プログラムについては、特に重点を置いて取り組まれていることがわかる。このことは、自分自身の命を考える源となる大切な教育であることから、継続した取り組みと、充実が図られることが期待される。掲示ボードや書類等で取り組みが確認できる。

(7) 自己領域の確保

①	A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a	A30
	<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。	○	
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○	
	<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	○	
	<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。	○	
	<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。	○	

【コメント】

2段ベット、学習机、クローゼット等設置し、子ども一人ひとりに適したパーソナルスペースが確保されており、くつろげる空間となっている。高校生の部屋は、二階に位置し一人に一部屋が確保されている。幼児の部屋の床は、畳にされている。職員が幼児の見守りと生活全般を支えて、不測の事態にも直ちに対応できるよう体制が整備されている。各部屋は施錠することができ、留守の場合に他の者が部屋に入らないよう配慮されている。

②	A31 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a	A31
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録（アルバム等）が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録（アルバム等）を整理している。	○	
	<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録（アルバム等）が手渡されている。	○	

【コメント】

アルバムは、子どもたち全員分が作成されており、子どもがいつでも見ることができる場所に置かれ、成長の振り返りができるように配慮されている。春の「卒園児激励会」では、各ホームの担当者がスライドショーを作成、上映し、子どもの成長の足跡を再確認している。スライドショーのデータはCDにして渡している。賞状等の個人のファイル整理についても内容を充実させて取り組んでいきたいと意欲を示されている。子どもの気持ちに寄り添い、成長の記録の充実にも努められることに期待したい。アルバム及びその収納位置は目視で確認した。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a	A32
---	--	---	-----

<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	○
<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。	○
<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

子どもに問題行動が発生した場合は、精神的に落ち着くまでの間、分離された空間で個別に対応し、子どもの気持ちの安定と他児の安全を守っている。また、個別の対応に関しては、事例のケース会議を行い適切に対応を行うよう努めている。対応の記録は適切に保存されている。

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a	A33
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○	

【コメント】

職員は、子どもの規範になるように努め、行動に配慮されている。引き続き、園内研修や指導部長による定期的なスーパーバイズ等により職員の資質向上と、子どもたちの安全・安心の確保に努めていきたいと意欲を示されている。また、子ども同士の暴力、いじめ等の事案が発生した際は、ケース会議や職員会議等で検討し、必要に応じて関係機関からの意見を聞きながら適切な対応が取られている。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	a	A34
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。	○	
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされている。	○	

【コメント】

これまで、具体的な事案は発生していない。事案が発生した場合に、適切な対応が出来るよう関係機関と連携を図っていきたいと述べられている。園の入り口等には防犯カメラ、センサーライトが設置されている。強引な引き取りのための対応については、職員に周知徹底が図られている。職員の防犯への意識も高く、対応については子どもが安全に安心して、生活が送れるよう努力がみられる。防犯カメラ等の設置場所は目視で確認した。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a	A35
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○	
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。	○	

児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。

【コメント】

心理士が1名配置されている。個別対応の際は、管理棟二階の心理面接室2室が使用されて、事例の内容により使い分けができる。今後、心理支援プログラムを作成し、自立支援計画と心理支援プログラムを連動させた支援や、職員との連携を密にした支援充実に努力したいと意欲を示されている。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a	A36
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

園では、学習環境の整備を行い、子どもたちの学力向上や学習の保障に努められている。中学生には、希望の高等学校へ合格できるよう、通塾や学習ボランティア等を導入し支援を行っている。また、園の進路担当職員と学校の担任教師が常に連携を取り合い、学力向上や進路選択の支援を行っている。具体的には、学校説明会への出席、高等学校を中退した子どもの就職活動の支援としてハローワークでの情報収集・提供等が上げられる。今後、職員が子どもの苦手教科の振り返りをおこなうと共に、学習の方法や目標について、子どもと一緒に考えていくようにしたいと考えられている。引き続き、子どもたちの心強い「道しるべ」の役を務めていただくことに期待したい。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a	A37
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。	<input type="radio"/>		

【コメント】

子どもの進路の選択に当たっては、学校や児童相談所と協議し、子どもの意向を尊重し納得のうえで自己決定できるよう支援されている。高校中退者に対しては、インターンシップからアルバイト、就職までの計画を作成し支援を行うこととされている。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a	A38
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

地域の企業に協力をお願いし、連携を密に取りながら就業体験を実施している。就職や自立支援にはNPO法人のブリッジフォースマイルも協力している。高校生には、アルバイトで自立の為の資金を貯めたり、資格を取得することを奨励している。引き続き、子どもの将来の自立に役立つ支援に努めていただくことを期待したい。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a	A39
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○	
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○	

【コメント】

家族支援専門相談員を1名配置している。子どもの状況に応じて、家庭訪問や家族との面談を実施し、家族関係調整が行われている。また、園だけでなく、学校や地域の行事についても、園便りやホームページで情報を提供し、保護者の行事参加等を促している。引き続き支援の充実を図っていただくことに期待したい。

(12) 親子関係の再構築支援

①	A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b	A40
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○	

【コメント】

家庭との調整においては、児童相談所と連携が取られている。保護者に対して、子どもへの理解や関わり方等について助言を行い、将来の生活について相談に応じるなどしている。来年度、家庭支援専門相談員を1名から2名に増員する計画があり、不十分な点を補いながら職員全員で子どもと、親の関係の再構築に努めたいと考えられている。養育・支援の充実に向けた努力に期待したい。

(13) スーパービジョン体制

①	A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	b	A41
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。	○	
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。	○	

【コメント】

基幹的職員（スーパーバイザー）を配置し、今年度から定例的なスーパービジョンを行うため、職員と個人面接を4月と9月の年2回実施されている。また、職員が、いつでも相談が出来るように、体制を整備している。職員が子どもの問題を抱え込みバーンアウトしたり、子どもへの虐待に発展しないように配慮されている。取り組みは今年度から始められており、今後、継続されることでスーパービジョン体制が確立し、組織力の向上が図られることに期待したい。